

平成30年度第1回南部町教育協働みらい会議 議事録

開催日時 平成30年7月18日(水)
午後3時00分～午後5時10分

開催場所 法勝寺庁舎 2階 会議室

出席者 陶山町長、井上教育委員、板教育委員、瀬田教育委員、
畠教育委員 永江教育長

事務局 大塚総務課長、板持教育次長、安達総務・学校教育課長

書記 総務・学校教育課 渡邊

欠席者 松田副町長

傍聴人 なし

	【開会 午後3時00分】
	【1. 互礼・開会】
	【2. あいさつ】
陶山町長	子どもたちに生きる力をどうつけていくのか、子どもたちが未来に、社会に順応していくためにはどうしたらよいか、皆さんと人材育成について基本的な骨格を共通認識していきたい。本日は就学支援、通学の安全安心について活発な意見交換を行いたい。
大塚課長	松田副町長は今日は欠席。7月初めの豪雨災害で防災協定を結んでいる尾道が断水となったため、町では給水支援として20名派遣した。今日派遣が最後となるため、挨拶に行っている。
	【3. 意見交換】
大塚課長	まず、子育て、就学支援について意見交換をお願いしたい。
安達課長	子育て、就学支援について現状説明 資料P1～8 説明
陶山町長	基本的には生活保護をきちんと受けってもらうことを考えなければならない。 町が保育園を無償化すると、試算だけで2千万円以上が町の単独持ち出し、負担増となる。国は法律的に、3歳未満の子どもの保育料の無償化を進めるといっているが、この財源は地方自治体が負担しなければいけない。
井上委員	昔から人は食べるために働いてきている、と思っているので、給食費については親がきちんと支払うべきだと思う。困った人がいるなら、援助の制度をきっちりと周知して、網の目から落ちないようにしてほしい。しかし、教材費については小学校だけは無償化をしてほしい。教科書は無償化で、教材費も学校が必要と考えているもの。同じように無償化が必要と思う。また、教科書がA4サイズとなったため机が狭く感じる。対応をお願いしたい。
永江教育長	教材費の無償化は小学校1年生～3年生まで実施している。これは、若い保護者への支援として、段階的に拡大していく予定で始めた。町の財源は無敵大ではない。6年生まで無償化すると、途中でやめるといったことはできない。
陶山町長	子育て支援対策で教材費の無償化を始めた。子どもが減少する中、子育て支援が充実している町に転入者が増えると考えた。しかし全国的に少子化になっていて限界がある。

	本当に町として良い方向なのかとも思っている。
畠委員	南部町は手厚い支援がしてある。果たしてここまで必要かどうか、実際子育て中の保護者は助かっているだろうが、給食費くらいは保護者負担してもいいと思う。
永江教育長	教材費の中で、勉強を教えるのに必要なものや先生が指導するのに必要な副教材は行政が出すものとする。教材費を精査した。財政面で難しいとなれば仕方がない。
板委員	教材費は小学校で月2千円程度だが、中学校では5千円となる。備えをしておかなければならない。南部町は子育て支援が充実していると他市町村の人もびっくりにしている。給食費については、個人負担が当たり前と個人的には思うが、5人も子どもがいるところは支援が必要と思う。
瀬田委員	給食費の無償化は反対。学ぶのに負担がかかるのは当然。教材費はグレーゾーンなので、精査が必要と思う。
永江教育長	教材費については、財源が伸びにくいのであれば、小学1年生から6年生まで半分を保護者に負担してもらう方法と小学3年生までを無償化と2通りある。小学3年生までを無償のほうがインパクトがある。
	要保護、準要保護の家庭は、給食費、教材費はもらっていない。認定については、各自治体で認定基準が異なっている。周知はしているが、保護者によって、手を上げない人がある。西部町村を横並びで見ながら認定はしている。
陶山町長	保護者は要保護、準要保護に認定されると子どもに不憫な思いをさせると思っているのではない。本当に苦しい家庭に援助していきたい。保育園の無償化は都市部の保育園が一番儲ける。地方の公立の自治体が一番財政難となる。
永江教育長	現在、教材費は子どもたちが集金袋で学校へ持って行っている。この集金方法を検討している。教材費と同じように中学校の制服や体操服は学校指定となっている。これについても、学校が指定しながら、保護者負担となる。福祉事務所でリサイクルするときにいたが、まだその話が入ってこない。
井上委員	黄色い帽子をかぶっている学校とそうでない学校とある。安全面で非常に有効と思う。町が合併した時にPTAに確認し、いらぬとのことだったようだが、熱中症対策としてもかぶった方がよいのではないかな。
永江教育長	PTA要望では小学校からはヘルメットの半額補助は出てくるが、帽子については出てこない。
井上委員	西伯小学校はバス通学があるので、その違いかもしれない。
永江教育長	生きる力を考えるとどこまで支援してよいか。中学校からの報告によると、エアコンがついていない時は保健室にエアコンに当たりたくてやってきていたが、今は、体育館で体育の授業をした後、体調不良で来るようになった、と聞いた。
板委員	最初は、エアコンをつけてもらってありがたい、と感謝されるが、慣れてきたらあたりまえとなってくる。
陶山町長	保育園は子どもより親をどうやって育てていくかが問題だと言っている。教材費より家庭教育が重要だと思う。
畠委員	以前は祖父母が手助けをして育てていた。今は核家族化して、親が親になりきれていない。今は少し障がいがあると家庭で育てられない。親と子の信頼関係が大切。今の親は、育児書や産婦人科で言われた通りにしようとしている。
陶山町長	正しい情報はネット上にあると考えている。
畠委員	子育てサークルがあるのでは。

陶山町長	子育てでサークルなどに来る人は、子育てに熱心な人が来る。アウトリーチで手取り足取りしなければいけない。
永江教育長	子育てについては、色々メニューがあるが、良い結果になっていない。
陶山町長	就学支援は、限りある子供たちが中学校から高校に行き、社会でたくましく生きていくようにしなければいけない。町としてはどこにお金を使うのか、ちゃんと知識をもって、父親、母親になってくれるのか、ここまで考えなければいけない。
永江教育長	困窮ではないが子育てが2の次、3の次になっている親もいるのではないか。食については親に期待しないといった考え方もある。バランスよく食べるには、直接子どもに言った方がいい場合もある。視点が大切。子ども食堂はどうか。
陶山町長	月1回なので来てほしい子は来ているようだ。
井上委員	子ども達へは先行投資と覚えてもらわないといけない。
陶山町長	親との信頼関係がないと子どもは育たない。貧困の度合いが見えなくなって、反対にひどくなっているのではないか。
大塚課長	子どもの安心安全対策について意見交換をお願いしたい。
安達課長	子どもの安心安全対策について現状説明 資料P9～11 説明
井上委員	先日、法勝寺中学校のまち未来会議があった。部活動の帰りに街灯がない所がある、とのこと。暗い土手を通るのではなく、国道の明るい場所を通学路としてはどうか。
永江教育長	通学路は、天候や明るさなどを考慮して別ルートを通学路にするのは一考あると思う。
陶山町長	昭和30年代、さくら土手が一番安全だったが、前町長の時より、夜は危ないから国道を通るよう言っているが、なかなかそうならない。
永江教育長	季節で通学路を変更してもよい。
瀬田委員	自分が小学生の時は農道が通学路だったが、今は距離は遠くても明るさや安全面を考えて通学路が変更となった。
井上委員	土手はガードレールがつけられない。
永江教育長	通学路のブロックの補修は補助金は出ないのか。
陶山町長	何か県から通知が来ていると思う。
瀬田委員	南部中の危険個所のブロックは民地であるが、高い塀となっている。現在、通行止めになっているが、今後対応をお願いしたい。
永江教育長	間違いなく地震は起きるので、何か対策を打たなければならない。団地等を含めればブロック塀の修理は多くある。通学路を優先して補助金額を上げるといった方法もある。
板委員	西伯小学校は一定の基準でバス通学をしているが、会見小学校は帰り子どもが少なくなって、不審者対応も考えていかなければならない。
陶山町長	バスに乗りたい家庭は乗ってもよいと思うが、西伯小と会見小の体力の差は歴然として いる。
畠委員	防犯カメラはどうか。
陶山町長	今や若い男性が中学生に挨拶したら不審者になる時代。街灯のない所を通って帰るより明るい所を帰ってほしい。巡回バスも寿命が来ている。安定してバスを運行してくれる企業もなくなってきている。
大塚課長	通学について小学校1年生がランドナップに入れる荷物が多い。バス通学は良いが、徒歩通学の児童は、先ほど安達課長さんの説明にあった、通学時地震が起きた時の

	対応で、ランドナップを頭に乘せ身を守る、ということが重たくてできないと思う。
安達課長	昔からの指導で、自分の持ってきたものは全て持って帰る、という生活指導の見解が 今も続いていると思う。
	【4. 挨拶(総括)】
永江教育長	今年エアコンを整備いただき、今年の猛暑に即座に対応できてありがたい。 就学支援はどこにどの程度支援が必要か適切に判断しなければならない。 通学路は見直すことを考えたい。
	【5. 閉会】
	午後5時10分